

令和7年度第1回一関市図書館協議会 会議録

- 1 会 議 名 令和7年度第1回一関市図書館協議会
- 2 開催日時 令和7年7月8日（火）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関図書館1階学習室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 佐々木伸也委員、二階堂美恵委員、都澤喜久子委員、金安信委員、
岩越裕史委員、菅原夏希委員、鈴木宏委員、玉澤万里子委員、
鈴木純香委員、門田真奈美委員、菅原慶子委員、岩本智美委員、
那須照市委員、千葉哲夫委員
 - ※欠席者 吉瀬献策委員、阿部利彦委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、八重樫裕之花泉図書館長、
佐藤和子大東図書館長、千葉浩千厩図書館長、小野寺晃一室根図書館長、
菅原春彦川崎図書館長、佐藤詠一藤沢図書館長、
佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、
小野寺香代一関図書館副館長兼資料サービス係長
- 5 議題
 - (1) 一関市教育委員会事務事業等の点検評価に係る外部評価委員の推薦について
 - (2) 一関市教育振興基本計画検討委員会の委員の推薦について
 - (3) 令和6年度一関市立図書館事業報告について
 - (4) 一関市立図書館運営方針、令和7年度の具体的な取組について（答申事項）
 - (5) 次期一関市立図書館振興計画の策定方針について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 挨拶

(1) 時枝教育長

図書館協議会は、図書館法で「図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする」とされている。一関市図書館協議会は、地域の実情を踏まえ、利用者および住民の皆様の要望を十分に反映した図書館運営に努めるため設置したもの。

図書館は、教育、特に社会教育の面で重要な教育施設である。

一関市教育委員会の教育振興基本計画において一貫して第一に挙げているのは「こ

とばの力を育てる」ということ。「ことばの力」に一番密接に結びつくのは読書、そして図書館であると考えている。

今年度は、この教育振興基本計画の計画期間の最終年度であり、次期教育振興計画も並行して策定作業を進めている。

市立図書館においても、一関市立図書館振興計画の計画期間の最終年度と次期図書館振興計画の策定の年である。

これまでの計画の進捗状況を評価して、次の計画を作成する訳であるが、「市民の心を豊かに満たし市民とともに成長する図書館」の実現を基本目標に掲げ、市民の利用を積極的に推進し、人が集い、憩い、育ち、有機的につながり、コミュニティづくりの一翼を担い、ともに成長する図書館を目指している。

この目標の達成のため、一関市立図書館でもこれを目指し、色々な事業を展開している。中でも、蔵書数は100万冊を超え、全国の類似する規模の自治体では、全国1位である。

人口減少が続く一関市にあっても、この良書100万冊が市民の身近なところで、手に取って読める読書環境の中で文化的生活を送れるような図書館環境が必要であり、市内の要所に8館と、移動図書館車により市内全域へ本を届け、読書普及をしていく活動が続けていくことを私たちは目指していくべきであろう。

本日は、昨年度の事業報告、今年3月27日に図書館長から諮問した図書館運営方針、令和7年度の具体的な取組について、次期一関市立図書館振興計画の策定について議論いただき、よりよい図書館運営に努めていきたい。

(2) 那須照市長

今、教育長からも挨拶があったように、本年度は、一関市立図書館振興計画の策定の年に当たることから、委員の皆様には協議についてよろしくお願いしたい。

この協議会は、活発な意見が出る協議会として知られている。ぜひ、普段から感じておられることを発言していただければと思う。

当市の図書館は、これから新たな100年を目指す図書館であることから、皆さんでこの「知の拠点」をますます重要なものにしていきたいと思うので、ぜひ「この計画に盛り込んでほしい」という意見があれば、積極的に発言していただければありがたい。

9 審議内容

- (1) 一関市教育委員会事務事業等の点検評価に係る外部評価委員の推薦について
事務局から玉澤万里子委員に依頼したことを説明し、了承された。

- (2) 一関市教育振興基本計画検討委員会の委員の推薦について
事務局から岩本智美委員に依頼したことを説明し、了承された。
- (3) 令和6年度一関市立図書館事業報告について
資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。
- (4) 一関市立図書館運営方針、令和7年度の具体的な取組について（答申事項）
資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 60ページ(4)全域サービスの「移動図書館車」、なぎさ号を更新していただき、利用者に喜んでいただいている。また、ほかの移動図書館車の運行についても、各地域で喜んでいただいていることが、図書館運営協議会の議事録からわかる。議事録にも書かれているが、移動図書館車に従事する職員が無理のない運行体制になるよう、今後とも予算の増額を含め頑張っていたきたい。

委員 59ページ(1)乳幼児・児童・青少年へのサービスと学校図書館支援の「学校図書館支援」の団体貸出について、このような支援を行っているのを知ったのが最近であり、大変役立った。このことについての周知や、具体的な事例をお知らせできると学校の先生は参考になると思う。

事務局 令和6年度第2回協議会において、委員の皆様からいただいた意見と、これに対し市立図書館としてどのように取り組んでいこうとするかについてまとめた。また、過去の協議会の答申に対しどのように取り組んでいるかについてまとめたので、それを御紹介させていただく。

「令和6年度第2回一関市図書館協議会（令和7年3月27日開催）においていただいた意見及び市立図書館対応案」及び「一関市図書館協議会における答申事項及び市立図書館の取組状況」の各資料に基づき事務局から説明を行った。

委員 資料収集と多文化サービスの実施について、パンフレット配布等による周知については市役所の窓口が効果的と考える。

委員 今年は狛鼻溪の名勝指定100周年であり、東山図書館はいろいろな所とコラボを行うことに特色があるので、今回も充実するのだろうと思うが、巖美溪も再来年に国の名勝及び天然記念物に指定されて100周年と聞いた。

今年は大船渡線も100周年で、狛鼻溪も100周年ということで、一関が誇るような観光地や、いろいろな関わりのあるものがちょうど節目を迎えるということも踏まえると、東山だけの取組ではもったいないと思うこともある。

だからといって、何ができるかということは思いつかないが、全域の中でも読の力を利用しながら地域観光や地域資源を盛り上げるような取組ができれば

いいと考えている。

会 長 JR大船渡線は今年、摺沢駅までが開業100周年で、ついこの間イベントを皮切りに始まり、2年後には千厩、そしてさらに5年後には気仙沼が開業100周年ということであり、現在レールが繋がっている一関と気仙沼の間に5年間はイベントが続くということになる。

摺沢はこの間イベントを行ったが、千厩は昨年と今年イベントを行い、気仙沼の方で5年後にイベントを実施するために、これからどんどん盛り上げていくこととしている。

その関連で今月26日には一関文化センター中ホールで、柚月裕子さんの講演会が企画されており、その第二部として、気仙沼出身で、「道～大船渡線～」という楽曲を提供しているシンガーソングライターの熊谷育美さんのミニコンサートも開催される。

委 員 室根では、JR大船渡線関連では昨年度、JR大船渡線の写真コンテストを市が企画して行い、室根出身の写真家の方が審査員を務めた。また、いちのせき歩こう会が、JR大船渡線の沿線の道を歩く催しを開催した。

委 員 千葉胤秀の生誕250周年ということで、博物館と連携しながら何か花泉でできないかという意見が運営協議会の中であった。その地域のことを知るとか、あるいは地域の歴史に触れる取組はすごく大事ではないか。そのことを博物館と連携しながら行うということは、面白さとか大切さもあるのではないかと思います。

もう一つ、地域との繋がりの中で、自分の推しの本という企画を行ったとき、花泉ではフリースクールがあり、そこに来ている子供たちが面白いポップをつけて並べた。身近な人たちが図書館に関わり、本を紹介してくれる、というのもいいのではないかと思います。

委 員 藤沢図書館の運営協議会で出された意見を紹介する。

一関図書館では自動貸出機を通じ、人の手を介さずに本を借りて、自分で持っていくことができるということで、人の手を介さずに本を借りていくのに少し抵抗があるという御年配の方がおられた。

今、個人情報の保護に重きが置かれ、AIや機械化とか、人の手を介さないことが進んではいるが人と人との繋がりを大切にしている方もいらっしゃると思う。自分も先ほど一関図書館で貸出手続を行い、自分はスマートフォンの中に図書館の利用者カードを入れているので、カウンターでスタッフの方を通じて借りてきたが、対応はすごく良く、機械化は進んでいるが、やはり、一関市は御高齢

の方もたくさんおられ、そういうところを求めている方もいらっしゃるので、どちらも大切にしていけるような図書館というのは大事ではないかと思った。

また、各館において、企画展示について興味が湧く展示があると思うが、藤沢図書館で毎年頑張っていると思うのが「科学道」で、科学に対する本をたくさん集めている。キャパシティの違いだと思うが、藤沢図書館で見たときには、充実していると思ったのだが、藤沢図書館よりキャパシティが大きい一関図書館に来ると、同じものを展示した時に少し小規模に見えてしまうので、キャパシティに応じて、資料数を増やしていただけるといいのではないかと思った。

委員 図書館の運営方針の中で、市民との協働というところで、各図書館でも協働体や市民センターと連携するというのがよく見えたのだが、実は、地域には他にも色々な団体がいて、実は企業も協働体の一つになっていると思っており、そういうところと繋がっていけばもっと広く、色々な方に図書館の事業を知ってもらえるのではないか。

それが何に繋がってくるかというと、おそらく後半で話が出てくと思うが、1人当たり年間貸出冊数の目標値があって、令和7年度12冊とあるが、1人何冊というよりも、まず1人1年に1回は図書館に来てみようという方向に持って行った方がいいのではないかと思う。そしてそれが、もっとフランクに分かれればいいのではないか。せっかくSNSや市公式LINEもしっかり活用しているので、市民センターや協働体と関わっているのであれば、企業にももう少し協力してもらい、フランクに発信できたらいいのではないかと感じた。

委員 運営協議会において、室根地域ではオヤマという企業があるので、外国人の方が多くいらっしゃる、との話が出た。ただ、現在、図書館を利用している外国人の方は大体10名弱だったと図書館からの説明があったので、外国人の方も図書館に来て何ができるのかというのがやはりわからないのではないか。外国の方の利用に対しては、企業の研修生担当の社員の方もいらっしゃるなので、一緒に図書館の使い方などをお伝えしていけたら、もう少し充実した図書館利用に繋がるのではないかという話が出ていた。

会長 これまでの意見を踏まえ、答申に反映する。

(5) 次期一関市立図書館振興計画の策定方針について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 1つ目、70ページの7行目の「情報の収集・提供機能の棲み分けに加え、情報拠点としての新たな機能も期待されており」とあるが、むしろ「情報の収集・提

供機能の棲み分けに加え」をカットした方が、情報拠点としての新たな機能の方が強調されていいのではないかと思います。

2つ目、72ページ(3)、「図書館学の専門家からの参考意見聴取」について、「今後の図書館づくりに関する課題認識や将来への提案をいただく」とある。課題に対しては、図書館側の課題認識について意見をいただきたいということであり、もう一つは将来への提案をいただきたいという二つのことだと思うので、「課題認識への意見」というように付け足した方がいいのではないかと思います。

3つ目、72ページの基本理念、「市民の心を豊かに満たし」のところで、評価するにあたって、「心を豊かに満たし」とはどういうことかと困っていることから、自分もどのような表現がいいのかわからないが、今後検討していただきたいと思う。

4つ目、先ほども出てきたように、目標数値についても、高すぎても職員の皆さんを苦しめていくことになるし、実績値が低ければ運営協議会でも「目標値に比べてなぜこんなに低いのか」と言われることになってしまうので、人口減なども含めての目標数値を今後設定していただきたいと思う。

事務局 70ページの「情報の収集・情報の提供機能の棲み分けに加えて」というのは、情報の収集については、計画を作ったときはまず本が主流だったのが、今や誰でも携帯端末を持つような時代になり、そこから色々な情報が入ってくるといった、本と、デジタル情報の収集の併用に変わってきたということを書いている。

「機会の提供の棲み分け」というのは、まず今までは、図書館で購入した本の書誌情報を図書館情報システムに入力し、そして利用者が探したい本を検索したのだが、今では図書館の情報やインターネットの情報など様々な情報があることから、全図書館のどこの部分を図書館で提供していけばいいのかというような選択方法で棲み分けしたいと考えていた。

72ページ目の「今後の図書館づくりに関する課題認識や将来への提案をいただく」というのは、確かに委員の御発言のとおりだと思うので、この認識のように入れさせていただきたいと思う。色々な考え方があることから、なかなか難しい理念、スローガンであると認識をして、こと細かくその指標に基づいて運用しているわけであるが、この点は次期計画を作る上では、よりわかりやすいものにしていきたいと思う。

目標数値については、現計画では125万冊を目標にしているが、現在のところ67万8,000冊しか達成していない。その辺のところは、次期計画では、人口減少

とか社会の情勢も踏まえ、より届きやすい数字の方に諮問をさせていただきたい。

10 答申

一関市図書館協議会長から一関図書館長に対し、令和6年度第2回一関市図書館協議会における諮問事項（令和7年度事業計画の策定）に対する答申があった。

その内容は、計画案は審議の結果妥当であると認め、下記の意見について検討し、計画の実施において活かすよう求めるものであった。

- 1 移動図書館車の運営を含む図書館運営について、図書館職員の負担とならないよう工夫した運営を行うこと
- 2 地域住民と連携した取り組みや、地域とのつながりのある郷土資料の充実を行うこと
- 3 図書館利用が困難な外国人などへのサービスについて、十分配慮を行うこと

11 担当課 一関図書館